

白布城だより 2017 春

栃木県真岡市白布ヶ丘 24-1

Tel 0285-82-3413

Fax 0285-82-2913

◆巻頭言◆

内に秘めた強さ

教頭 渡辺 徹

3月1日、平成28年度真岡高等学校卒業式(全日制第69回、定時制第45回)が厳粛にとりおこなわれました。定時制からは、4年次生7名と3年次三修生4名の計11名が白布ヶ丘の学舎(まなびや)を巣立っていきました。

定時制卒業生を代表して杉山雄一さんが答辞を述べてくれました。杉山さんは17歳で高校を退学した後、夜中2時から始まる新聞配達のアルバイトを1日も休むことなく10年間続けます。そして、高校卒業を決意し、本校定時制に編入学しました。杉山さんは、新聞配達のアルバイトと高校生活を見事に両立させ、クラストップの成績を修めました。卒業後は地元の食品会社に正社員として働きだします。(真岡高校定時制は、昨年10月中に就職希望者全員が内定をいただきました。就職内定率は100%です。栃木県の昨年11月末の平均就職内定率は全日制高校92%、定時制高校39%です。)

杉山さんの柔和な表情、もの静かな態度からは、どこにそんなパワーがあるのか、すぐにはわかりませんでした。しかし、杉山さんが答辞の中で「一生の宝物」と述べた本校定時制の日々のなかで、クラスメイトや先生方は杉山さんの「内に秘めた強さ」を次第に感じるようになりました。そして、その強さは、杉山さんがきつと長い時間をかけて、苦勞しながら培(つちか)ってきたものだということも…。だから、クラスメイトや先生方は、尊敬にも近い気持ちと親しみをこめて、「杉山さん」と呼んでいたのだと思います。

書家の坂田聖峯(さかた せいほう)さんに、次のような詩があります。

コスモス

腰が弱い 根が浅い けれども 風に在る無限の言葉 風に在る無限の美を

ニコニコと受けとめながら もうすっかりと苦勞を忘れている

コスモスの花は可憐(かれん)で、たおやか(しなやか)で優しいです。茎は細く、強風が吹くと、すぐに倒れてしまいます。しかし、一見弱そうに見えるコスモスが、じつは相当に強いことを坂田さんは詩にしているように思います。

コスモスの原産地は標高1,500メートル以上のメキシコの高原です。そこでの乾燥した強風に飛ばされないよう、コスモスは非常に細い葉を持つようになりました。水分を蒸発する気孔が少なく乾燥にも強いのです。土質を選ばず、荒れ地にも、やせ地にも生えます。風に倒されても、倒れたまま上を向き、また、倒れた所から根を出し、起き上がってきます。コスモスは一度生えたと、こぼれる種子で毎年生えます。一年草で、その花はただ一つの秋に巡り合うためだけに生まれてきました。だから、くよくよしたり、苦勞を嘆(なげ)いている時間はありません。ただ、かけがえのない今を咲き、淡々(たんたん)と生きています。コスモスの内に秘めた強さは、「今、成すべきことを成すだけ」という覚悟の中にこそあるように私は感じます。

定時制生徒の皆さん、平成28年度が終わります。この一年間、昼間のアルバイトで疲れているにもにかかわらず、元気に登校してきた皆さん。様々な事情を抱えながらも笑顔を絶やさず、友人と語り、授業を受けてきた皆さん。各種検定やコンクール等で合格や入賞を目指して努力した皆さん。生徒会や部活動で頑張ってきた皆さん。経験の積み上げ方には人それぞれ違いはありますが、成すべきことを成してきた本校での一日一日は、必ず皆さんの「内に秘めた強さ」を培っています。その強さをさらに揺るぎないものにしていくために、平成29年度も頑張りましょう。反対に、成すべき事を成さず、時間だけが流れてしまった人は、今度こそ「内に秘めた強さ」を培っていける平成29年度にして欲しいと思います。＜2面へ続きます。＞

保護者の皆様ならびに定時制後援会、地域の皆様には、今年度も本校定時制の教育活動に多大なご支援とご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。おかげで生徒達は、歩みの速さに違いこそあれ、一歩ずつ着実に成長しています。そして、真岡高校定時制はさらなる発展を続けています(※参照)。皆様、新たな平成29年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

※平成28年度、真岡高校定時制が始めた新たな試みの幾つかを次に示します。

- | |
|---|
| 1. 真岡西ロータリークラブとの連携による地域ボランティア活動の充実
(来年度も継続予定) |
| 2. 真岡ライブリー(真岡市適応指導教室)との生徒交流会の開催
(来年度は開催回数を増やす予定) |
| 3. 地元自治会(真岡市並木町区)における「白布城だより」回覧を開始 |
| 4. 芳賀地方芸術祭への参加と入賞
(「国語」の授業における創作活動による言語活動の向上) |
| 5. 新たな検定への挑戦
(P検:旧パソコン検定 3級, 準2級に合格) |
- 等々

3学期の出来事

逆境に耐えて生きる力を●3学期始業式

年が改まって、ようやく新年の気分も抜けた1月10日(月)、本校の第3学期が始まりました。

講話をした菊地 透校長は、「今年は酉(とり)年です。諸君は、「酉」は、十二支の中でどのような役割を担っているか知っていますか。よく、『犬猿の仲』といいますが、干支では、犬(戌)と猿(申)の間に鳥(酉)がいます。だから、『鳥(酉)』は、仲の悪い二人の間を取り持つ役を果たしているのです。」と、興味深い話をされました。

そして、新年の目標として「工夫して実践してみよう。」という言葉が挙げられ、私たちの身近にもいる「コガラ」という野鳥を例に挙げて話されました。「コガラ」は、漢字では「小雀」と書きます。スズメ目シジュウカラ科の鳥で、全長は13センチメートルほど。全体的に白っぽい鳥で、頭の部分と喉が黒く、背中が灰褐色をしています。日本には一年中います。

ところで、校長は、アメリカ合衆国のアラスカとカンザスシティ(アメリカ中央部)生まれの「コガラ」を捕らえて行なった、餌をとる実験結果について紹介されました。

互いの「コガラ」の前に、餌である虫を小箱に入れて置いたそうです。その結果、「アラスカ生まれのコガラ」は、見事にふたを開けて餌を食べることができ、「カンザスシティ生まれのコガラ」は、とうとう最後まで箱のふたが開けられなかったそうです。つまり、餌が食べられなかったのです。その結果から、アラスカでは、過酷な自然環境の中、なかなか昆虫が捕れないので必死になって餌を探す習慣が身についている。しかし、カンザスシティは人間界であるから、簡単に餌が取れる環境にある。つまり、「工夫する行動の緊迫感」と「のほほんと過ごす気ままさ」の差が見られた、というのです。そこから、「逆境に耐えて生き延びる力が大切である。」という大きな教訓が得られるのです。

大自然の小さな鳥の話ですが、私たち人間の考え・行動と寸分も変わらない事実に感動を覚えない人はいないでしょう。

真岡高校定時制に学ぶ皆さんは、投げかけられた話をしっかり受け止めて、「自分創り」に生かして欲しいと思います。

森は海の創造主●環境教育

3月1日発行の生徒会誌、『白布城』45号にも記載されていますが、1月18日(水)の1, 2時間目に、「環境教育」が行われました。

私たちの住む栃木県は、北西部に山間部があり森林が広がっています。見慣れた光景ではありますが、この「森林」が海を育てるという事実を皆さんはご存じでしょうか。

森林に降った雨は地下に染みこみ、やがては川となって広大な海へと流れていきます。そして、山間

部で蓄えたエキスが海の魚たちを育てているのです。もし、山に樹木がなかったら……。

自然は循環しています。開発や造成などで自然を歪（ゆが）めてバランスが崩れると、やがてはその反動がわれわれ人間にもたらされる事実を、私たちは知らなければなりません。

引き締まる思いを胸に●卒業生諸指導

学年末テストが終了した２月６日（月）、いよいよ「卒業式」に向けて加速度が一気に増しました。これまで、高校生活にドブプリと漬かっていた卒業年次生たちは、「個人の荷物の整理」や「同窓会入会式準備」、「同窓会年次役員」の決定など、慌ただしく「卒業生」になっていきました。

平成２８年度卒業生の同窓会年次役員は、渡辺玲奈さん（東洋ビューティ株式会社内定）と渡辺弘樹くん（エーベックス・アーティストアカデミー入学予定）のお二人です。

同窓会のみならず、クラス会などの企画・立案などの取りまとめもお願いします。

先輩、さようなら●予餞会

卒業年次生と共に過ごす学校行事も、とうとう最後となりました。

２月８日（水）、現生徒会役員が中心となって卒業生を送る「予餞会」が開かれました。

予餞会の「餞」は、『はなむけ』の意味。「旅立つ人を送る会」が予餞会です。ちなみに、『はなむけ』という言葉の元々の意味は、旅に出る人の乗る馬の鼻を旅立つ方向に向けて、旅の無事を祈ったのが事の始まりだそうです。だから、「花向け」ではなく、「鼻向け」という文字が正しいのです。よく、結婚式での「はなむけの言葉」などで、よく用いられる言葉です。

ところで、今回の予餞会も在校生を含めて大いに盛り上がりました。上級生・下級生の仲が良いのも真岡高校定時制課程の特徴です。この伝統を守り続けていきたいものです。

いよいよ同窓生に●同窓会入会式

２月２８日（火）、平成２８年度同窓会入会式をメインに、全定合同での入学式予行練習と定時制課程の表彰式・表彰伝達式が行われました。（結果は、下記のとおりです。）

同窓会入会式では、佐藤 務同窓会長代行が、「皆さんは、広く世界で活躍する先輩たちの仲間に入る。皆さんの使命は、社会でそれらの先輩を凌ぐ活躍をすることだ。また、同窓生として、どうか、後輩たちの面倒も見たい。」と挨拶がありました。卒業する皆さんは、緊迫感のある空気に包まれて、また一步、成長したようです。

記

表彰式

学校長賞	渡辺 弘樹
学業賞	杉山 雄一 渡辺 弘樹
特別活動賞	見吉ケイイチ 渡辺 弘樹 和久 拓実 杉山 雄一 齋藤 一樹 大森 匠
精励賞	見吉ケイイチ 渡辺 弘樹 渡辺 玲奈

表彰伝達式

全国高等学校定時制通信制教育振興会長賞	見吉ケイイチ 渡辺 弘樹
栃木県高等学校定時制通信制教育振興会長賞	杉山 雄一
栃木県高等学校文化連盟賞	渡辺 弘樹

厳肅な中に笑顔●全定合同卒業式

３月１日（水）、本校講堂で、全定合同卒業式（定時制は第４５回）が開催され、４年次生７名と三修生４名の合計１１名が、この白布ヶ丘を巣立ちました。担任を代表して木村美津子先生から呼名された１１名は、それぞれの夢を胸に抱いて、最後の高校生活を満喫していました。

すべての行事が終わった後、みんな、職員室に現れて先生方と最後の話をしていました。

この卒業式で、特筆すべきは、三修生として卒業を迎えた杉山雄一くんの「答辞」です。さまざまな苦難を乗り越えて、年齢の離れた仲間たちと学校生活を送り、優秀な成績と模範的な生活態度で手にした「卒業」の二文字は、何ものにも代えがたい宝物でしょう。最後のメッセージで、家族に向けて「ありがとうございました。」と述べたのは、あながち儀礼ではないと思われます。

素晴らしい答辞に、シーンとした空気が漂うのを肌で感じたのは、私だけではないと思います。

受検生頑張る●定時制一般選抜

めっきり春の息吹が感じられるようになった3月16日（木）、平成29年度一般選抜考査が行われました。緊張した面持ちの受検生16名（編入学希望者1名を含む。）は、時間に余裕を持って集合し、学科試験・面接試験に挑戦しました。

23日（水）の合格発表では、合格者全員、高校生生活に希望を抱いているように伺われました。

バケモノの子●「総合的な学習」のまとめ

3月22日（水）、全校生徒が多目的ホールに集まり、アニメ『バケモノの子』を鑑賞しました。

人間の世界から、ふとしたきっかけで「バケモノ」の世界にスリップした男の子が、そこで「師匠」と出会い、彼の下で修行に励むことになります。そして、こころに巣を食った真っ黒い「悪（欲望）」との戦いに臨みます。剣に姿を変えた「師匠」を手にした男の子は、こころに宿る「悪」を打ち破り勝利を収めるのです。

人間は、だれにでも「楽をしたい。ズルをしたい。」という気持ちやルールに反する「欲望」が、こころのどこかに潜んでいます。私たちは、それを理性でコントロールして「悪いことをしてはいけない。」と、自分にブレーキを踏んで生きています。しかし、中には「欲望」に負けてしまい邪（よこしま）な行動に出てしまう人もいます。

今回のアニメーションは、そのような現実をテーマにした作品ですが、生徒の皆さんも「何か」を感じてくれた者と思います。

熱中！第3回校内体育大会●バドミントン・卓球・フットサル

今年度最後の学校行事である「校内球技大会」が、3月23日（木）に本校体育館で行われました。

今回の種目は、バドミントン、卓球とフットサル。それぞれの種目にエントリーした選手たちは、まさに、菊地校長の挨拶にあった「知・徳・体」を実践して、明るく元気に競技を楽しんでいました。

結果は、次のとおりです。

バドミントン	優 勝	川畑みゆき（2－1）
卓 球	優 勝	小菅 亮太（2－1）
フットサル	優 勝	3年次1組

挨拶を大切に！●平成28年度修業式

今年度を締めくくる修業式が、3月24日（金）、多目的ホールで行われました。

菊地 透校長は、「先日、定時制の生徒諸君の挨拶を、全日制の保護者の方から誉められた。」というエピソードを紹介され、「挨拶の大切さ」を中心に講話されました。

校長は、「挨拶をすると笑顔が増える。挨拶は、積極的な行動の第一歩だ。挨拶されて嫌だと思える人はいないはず。よい人間関係を構築するためにも、『挨拶』を大切にしたい。」という話がありました。そして、「本校生の約80%の諸君が働きながら通学している。大変な事だと思うが、若い時代の『無理』や『苦労』は、将来、必ず「宝物」となる。諸君は、楽しいときは大いに楽しみ、頑張らねばならないときはしっかり頑張って、高校生時代に『自分の生きるスタイル』の基礎を創って欲しい。」と、述べられました。

「笑顔」は、あらゆる生き物の中で、唯一、人間だけが持っている心情表現ですが、「挨拶」は、多くの生き物がそれぞれのスタイルで行っている表現形態です。なぜかというと、「挨拶」は、「あなたに対して敵意を持っていませんよ。」という気持ちが行動に表れたものだからです。生徒の皆さんはもちろん、私たち全ての人間は、「笑顔」「挨拶」の意味を考え、積極的に、そして自然に行動に移して豊かな人間関係を作り、円満な社会環境を創造していかなくてはならないと思います。

白布の風～あとがきにかえて～

平成28年度の授業も、本日、無事に終了しました。地域の皆様、定時制後援会の皆様、そして保護者の方々には、一年間お世話になりました。生徒たちは元気にこの日を迎えたことをお伝えいたします。

この一年を振り返ると、英国や米国など世界的にも大きな変動が見られました。世界は一気に不透明さを増し、一国の出来事が一国の問題ではないことが証明されています。

このような時代に生きる、そして未来を担う生徒たちは、一個の「人間」として、有為な存在にならなくてはなりません。そのためにも、高校性時代に研鑽を積んで「自分」を磨いて欲しいと思います。

新年度の第一学期始業式は4月10日（月）です。充実した気持ちで登校しましょう。

記録・広報係